憲法共同センター　宣伝スポット(案)　　　　　　2016年10月

ご通行中のみなさん、こんにちは。私たちは、労働組合や、女性、中小業者、農業者、青年、弁護士、医療団体などが力をあわせて、憲法を守り生かそうと取り組んでいる「戦争する国づくりストップ！憲法を守り・いかす共同センター」です。安倍政権が進める憲法違反の安保法制・戦争法の廃止を求め、憲法改悪に反対して宣伝をしています。お配りしているチラシをどうぞご覧ください。

また、自衛隊に「駆けつけ警護」などの新しい任務を付与せず、南スーダンから撤退するよう求める署名をお願いしています。南スーダンは、内戦状態が続いています。自衛隊を戦地に送らないために、ぜひご協力をよろしくお願いします。

そして、もう一つ、沖縄県民の民意を尊重し、基地の押しつけ撤回を求める全国統一署名もお願いしています。ただでさえ過重な負担にあえぐ沖縄に、さらに新たな基地負担を押し付けようとする安倍政権の暴走を止めるために、市民の声を示す署名です。ぜひ、ご協力をお願いします。

　さて、7月の参院選挙は、「戦争法の廃止」、「安倍政権の打倒」のため、史上初めて4野党と市民が力を合わせてたたかいました。全国32の一人区全てで野党統一候補が実現し、11の選挙区で自民党候補に勝利し、沖縄と福島では、野党統一候補が現職の閣僚を破りました。市民と野党が力を合わせれば、改憲をねらう勢力に勝てる展望を切り開きました。戦争法の廃止、安倍政権のもとでの憲法改悪を許さないために、来る総選挙へむけて、市民と野党の共闘をさらに発展させましょう。

安倍首相は、参院選で「改憲は争点ではない」と言ってきたのにも関わらず、選挙が終わったとたん、「自民党の改憲草案」を土台に「憲法改正」を議論していくとはっきりいっています。「自民党改憲草案」は、日本国憲法の平和主義・主権在民・基本的人権の尊重という三原則を根本から壊すもので、戦争をしないと誓った憲法9条を変え、「自衛隊」を「国防軍」にするものです。世論調査でも安倍政権のもとでの憲法改正に国民の大多数は反対しています。この声を無視して改憲につきすすむことはぜったいに許せません。

　安倍政権は、日本が攻撃されていないのに他国軍がおこなう戦争に参加する法律、戦争法（安保法）を発動しようとしています。南スーダンのＰＫＯ（国連平和維持活動）に派遣されている自衛隊員に、他国軍を守るための「駆け付け警護」、「宿営地の共同防護」という任務を追加し、任務遂行のための武器使用を拡大しようとしています。激しい戦闘が続く南スーダンで、自衛隊員が「殺し、殺される」現実の危険が高まり、自衛隊員や家族の間に不安が広がっています。憲法9条を持つ日本が今やるべきことは、自衛隊を南スーダンから撤退させ、非軍事の人道支援、民生支援、平和外交での積極的な貢献です。戦争法の発動をストップし、戦争法を今すぐ廃止にすべきです。

南スーダンからの自衛隊撤退、戦争法廃止を求める署名にとりくんでいます。ぜひご協力ください。

参院選直後から、安倍政権は沖縄へ強権をふるっています。高江へのヘリパット建設の強行を進め、沖縄県民への非人道的な弾圧を行っています。沖縄県との話し合いを拒否した一方的な提訴、法律を無視した辺野古新基地建設工事の再開など、安倍政権による強権の横行を許すわけにはいきません。

新基地もヘリパットもつくらせない、普天間基地の即時返還と日米地位協定の抜本的な改定を求め、沖縄県民と連帯して声をあげましょう。

私たちの願いは、憲法を変えることではなく、憲法を守り生かす政治に変えていくことです。

今、子どもからお年寄りまであらゆる世代の間で「貧困と格差」が広がり、くらしへの不安が大きくなっています。「不安定雇用やブラック企業・ブラックバイトをなくして、安心して働ける社会にしてほしい」、「年金制度や介護制度を充実させてほしい」などの願いがあふれています。大企業と富裕層を優遇し、市民のくらしをますます追い詰める「アベノミクス」ではなく、憲法をくらしに生かし、人間らしく働けるルールづくり、貧困と格差をなくす政治を求めていきましょう。

秋の臨時国会が始まりました。10月23日投開票の東京10区、福岡6区の衆院補欠選挙がたたかわれています。これに先立ち、民進党、共産党、社民党、生活の党の野党4党は、補選と次期衆院選でできる限りの協力を行うことで一致し、臨時国会で共闘することを確認しています。

戦争法は廃止に、9条壊すな、憲法改悪絶対反対、そのために野党共闘のいっそうの発展を、の声をごいっしょに大きくあげていきましょう。私たち国民みんなで「改憲を許さない」の声をあげ、憲法をくらしに生かし、民主主義が守られる社会を実現しましょう。